

虫歯や歯周囲炎の原因にもなる 親知らずは早めに受診を



医療法人社団

札幌歯科口腔外科クリニック

歯科医師

神麻紀也

親知らず(智歯・ちし)は口の最も奥に生えてくる歯で、上下左右の計4本あります。生える時期は、おおむね10代後半から20代前半です。親知らずは、本数や生え方に個人差があり、まっすぐ正常に出てくる人もいますが、元々親知らずがない人や、親知らずがあっても全く出てこない人も多く、萌出スペースの不足などが影響します。顎の骨や歯茎の中に歯の全てまたは一部が埋まったままの「埋伏歯(まいふくし)」や斜めに出てくる場合も多くみられます。

親知らずは、歯みがきがしにくく、特に横向きに生えている場合は隣の歯も虫歯になりやすくなります。また、歯と歯茎のすき間に食べかすがたまり、細菌が増殖して炎症を起こし腫れや痛みが出る「智歯周囲炎(ちししゅういえん)」を引き起こすことがあります。症状が出た際は、早めの受診をおすすめします。

抜歯が必要な場合は、抜歯の本数によって外来での治療が可能です。当院では歯科用CT検査で親知らずの根の状態を把握し、より正確な治療を行うようにしています。見たところ「親知らずがない」と思っている場合でも、X線検査で歯茎の中に埋まっていることがあります。将来のお口の健康のためにも、気になる方は一度ご相談ください。